

Yamakado News Letter



現地交流会 開催

コロナ禍の影響で開催が危ぶまれていた、県主催の山門水源の森現地交流会が、8月10日開催されました。例年は森林に関する講演会も午前の部で開催されるのですが、今年は山歩きのみ。また参加者も例年の半以下以下の40名に絞っての開催となりました。森の保全の話聞きながらブナの森コースを歩くというのが今年のテーマ。

当日の長浜市の最高気温は36.0℃。熱中症も心配されましたが、尾根筋ではやや強めの南風が吹き、気持ちの良い山歩きとなりました。



現地交流会 開会の挨拶 Photo 藤本H

8月の保全活動

現地交流会に先駆けて、8月の保全作業では、水に濡れながらの作業を避けていた沢道沿いの倒木処理、雨が降ると滑りやすいと指摘されていた木橋の滑り止め対策、ササユリ保護ネットの迂回路で酷いヌカルミがあるのを何とかする等々、主にコースの整備を行いました。

コース全体では1,000段を越す階段があり、老朽化で欠損する箇所も増えています。少しずつ対応していますが、現地交流会までに全面改修とはいきませんでした。秋以降で順次改修していきたいと考えています。



倒木処理



木橋に滑り止めの縄を巻く

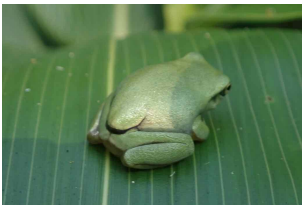


膝下まで沈むコース地盤



割木を並べて対応 Photo 藤本H

8月の森の様子



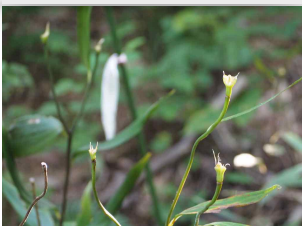
上陸を開始した幼体 8/6



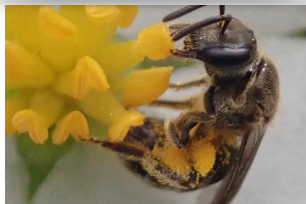
アギナシ雄花開花 8/9



ツルリンドウ開花 8/27



集中被害を受けた株 8/19



アギナシの花粉を運ぶミツバチ



サギソウを吸蜜するモンキアゲハ 8/28

モリアオガエルの幼体が水中から陸上に生活圏を変える頃を、毎年関心を持って観察しています。今年は例年と比べ、上陸開始が遅かったように思います。2ページ目にグラフを掲載していますが、今年の7月は極端な多雨低温、8月は逆に極端な小雨高温でした。生活圏の変更と気象条件には何らかの関係がありそうですが、どうでしょう。



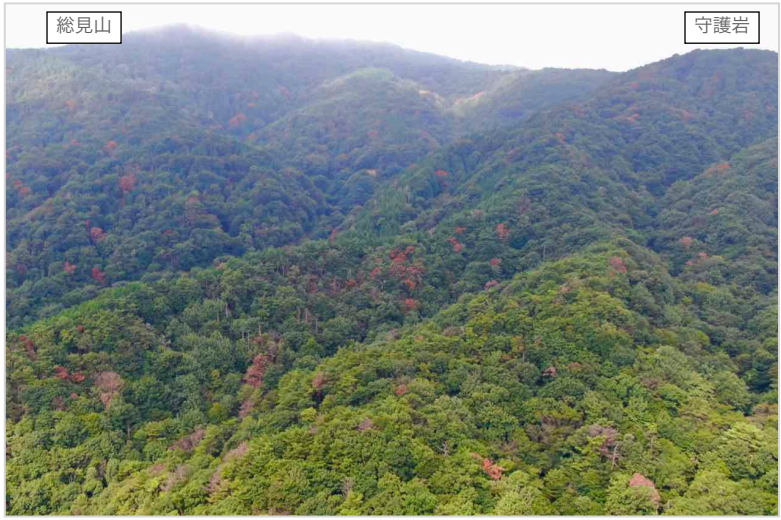
7/25



8/03



8/09



総見山

守護岩

天然更新試験地上空からドローンで撮影 2020.08.18

気になるナラ枯れの拡大

編集子がこの森に関わるようになったのは2012年からです。昨年までは特に気になりませんでした。今年に入って、この森でナラ枯れの拡大が目につきます。過去の記録等でナラ枯れについて調べてみると、2000年、2010年の被害が酷かったようです。ピッタリ10年周期

です。(2010年は全国でも被害が最大)

ナラ枯れの防除・駆除の方法が色々考案されていますが、何れも多くの手間が必要で、広域で対策を講じるのは大変なようです。また、ナラ

枯れの規模が年によって変動するのは、夏期の高温・小雨や冬季の高温や春季の降水量の影響が指摘されています。この森でも関連が見られるのか、アメダスのデータを取得して表を作ってみました。気温は今津、雨量は柳ヶ瀬のデータを使用しました。黄緑枠の箇所が2000年、2010年、2020年の

データです。春季の降水量は特に関連が見られませんでした。該当年は冬季・夏季とも、気温は高めであるように思います。また今年の7月は極端に雨量が多い月でした。こうした事は影響があるのでしょうか。

気象条件とは別に、森林総研によれば「近年のナラ枯れ増加は、人間の生活様式の変化に伴い里山林も変化する中で引き起こされた」放置林と老齢木の問題が指摘されています。この森もかつては里山として利用されてきましたが、今は放置されている。ナラ枯れはそんな森からのサインでしょうか。

